

第1回香南市まちづくりグランドデザイン策定委員会

— 議 事 録 (要旨) —

■日時：平成27年1月21日（水）

10:00～11:45

■場所：香南市役所本庁舎3階第4会議室

■出席者

○策定委員会委員

受田委員、宮崎委員、柳本委員、高橋委員、石川委員、西内委員、小松委員
野中委員、田内委員

○オブザーバー

清藤市長、吉用氏（高知大学）

○傍聴者：1名

○事務局

浜田氏、西内（栄）氏、寺田氏、田中氏（市企画財政課）

【次第】

1. 開会（進行：浜田氏）

- ・清藤市長あいさつ
- ・受田委員長あいさつ
- ・新委員あいさつ（小松委員）

2. 議事（進行：受田委員長）

議事（1） 意見集約について

■事務局

～内容についての説明～ 資料1参照

■委員

- ・赤岡地区がない。

■事務局

- ・地区懇談会は18会場行われたのですが、赤岡地区でグランドデザインの意見がなかったということです。

■委員長

- ・興味深いのはNo.8「夜須川」の20年後の人口をどれくらいに設定するか。人口に対しての年齢構成なども参考になる。そのような質問はなかったのか？

■委員

- ・振興計画の中で現状維持の3万4千人を考えている。産業フレーム、人口フレームとして香南市もしっかりし、市の目標を考えていこうと検討している。

■委員

- ・20年後の将来について考える。国の予算が地方創生へ向いている。しかし、若い人は都市に働きに行くために人口が減っている。若い人が働ける環境などについてこの計画の中に盛

り込んでいければと考える。この策定委員会のメンバーに若い人を加えるなど、若い人の意見を聞ければと思う。

■委員

- ・香我美町の工業団地へ地元雇用の要望をお願いしたい。工業団地が活発にできるための対策を。20年後は高齢者の人数が多くなるかもしれない。若い人に香南市へ住んでもらいたい。野市町、赤岡町の空店舗利用で活気ある香南市へ向かってほしい。

■市長（オブザーバー）

- ・地方版の総合戦略を考えていかないといけない中、香南市は先行してこのグランドデザインをつくっている。産業振興計画も別会議で行っている。20年度の人口として県も移住の施策を考えている。香南市が考えているのは人20年後「減らない施策」。総合戦略の中でも年齢構成など考えて行く。
- ・工業団地について、順調に契約も増えており、契約の中には、地元雇用のことも考慮していくと詠われている。県と香南市が半分ずつの拠出でできた団地、一緒に盛り上げていきたい。

■委員長

- ・意見の大半はこの委員会で明確にしていく部分。委員に若い人を入れることについてはどうか？地区懇談会でも意見はもらえる。行政広報などで内容をPRしていくことができる。傍聴も行っている。

■委員

- ・委員会は必要な事項は取り入れていきたい。地元で若い人が集まったり、青年部との懇談会も開催することもできる。検討していきたい。

■委員長

- ・国でも委員の男女比などを考えている、良い方向へ進めば。
- ・今後の議題が一連の流れとなっているので一緒に説明してもらい、後ほど意見をいただく形で良いか？

議事（2） 検討の流れについて

■事務局

～まちづくりグランドデザイン検討の流れについての説明～ 資料2、2-1参照

■委員長

- ・今回が平成26年度1回目の会議。当初の計画から遅れている。昨年度は策定委員会にコンサルがいて検討委員会を行っていたが、その点を変更した。行政内部で相当に議論は積み上げてきており、その分時間がかかっている。我々としても遅れを取り戻し、予定どおり、さらに計画を進めていきたい。次の基本計画の説明をお願いします。

議事（3） 基本計画の策定について

■委員（副市長）

～基本計画策定についての説明～ 資料3、3-1、3-2参照

■委員長

- ・第1章から基本計画までを現状と将来を分析しながら説明してもらった。現況を分析するだ

けでも膨大な資料、産みの苦しみを味わっている。大学として持っている資料が活用できるなら提供する。将来のあるべき姿を分析するなど、専門家分野についても協力する。検討について修正の必要な部分があればご意見を。

■委員長

- ・第1章が大変と思う。産業振興計画でどのように観光部分が議論されていくのかかぶっている部分があるが、どのように考えていけばよいか？

■委員

- ・産業振興計画とランドデザインの役割部分で苦労している。当初予定していた部分で2点大きな課題が出てきた「観光ルート拠点形成基本計画」と「活性化拠点整備計画」。これが片方だけだと計画性が弱い。観光と拠点を合わせ香南市の都市構造を考え、連携をとったものをランドデザインで考え、産業振興計画に送ろうと考えている。産業振興でできた母体をランドデザインへ返していくような連携ができないか考えている。まだまだ、走りながら調整している現状だ。

■委員長

- ・なかなか難しい状況。20年という計画なので、世の中が変わっているだろう。自動車も20年後は自動運転になっているだろう。20年後は後期高齢者もICTなどのインターネットを軽々使える人になっているだろう。今の技術で交通体系やゾーニングを考えていってもあつという間に色あせてしまう。そのため、将来のあるべき姿とのギャップがでる。IoT(インターネット オブ サク)でコマツの大型重機が現在どこで動いていて、パーツの取り替え時期がいつなども管理されている。IOE(インターネット オブ エリツク)ですべてのものがインターネットで情報としてとられて把握されているビックデータの時代になっているかもしれない。今の香南市の状況を考えたとき、中山間も今はこのままでよくないかもしれないが、将来は情報がつながっていて自動運転になっているかもしれない。技術革新の予想はこの中でどう受け止めていくのか？

■委員

- ・日本社会はあまりに発展してきている。もう一方で基盤整備は必要と感じる。中山間もきつと形が変わるから整備をしていかなないといけない。将来のことも3年、5年のサイクルで見直が必要である。
- ・人生支援と産業振興と基盤整備の3つの計画を連携して時代の変化に対応したい。

■委員

- ・抽象的すぎるので、20年後の香南市の姿が浮かばない。昨年よりランドデザインと産業振興計画は並行した議論を進めていくことになっていたと思う。産業振興計画の観光だけがこの中に入っている。具体的に検討も良いが、ランドデザインに産業振興計画が入っていないと項目が欠落している計画になるのではないか？
- ・庁舎周辺の土地利用計画は、今後具体化になるのであえて触れなくてもよいと思う。一方の南海地震対策、20年後の姿では南海地震がくる確立が高いときである。南海地震対策の項目のないランドデザインでは意味がないのでは、まちづくり基本計画の中には、産業振興と防災、防災も高台移転だけに絞ると非常に難しいと思う。南海地震対策には、津波以外に揺れもある、最大限のエネルギーの場合と、そうでない場合もある、その対策も打っていないといけない。浦戸湾から西の堤防補強工事が現在行われている、これを香南市沿岸で実

現すれば被害は相当変わってくる。減災の対策も20年あればできるのではないか、この対策も必要である市民目線で入れるべきだと思う。項目立てとして、産業振興計画と防災対策（高台移転をどのように進めているのか）を検討しているということを示していかないといけない。南海地震対策黒潮町の出口地区のこともある、住民の集団移転は難しい、公共施設を先行移転し誘導していくのが現実的であるという意見がある。高台移転をしていくのは具体的にはどういう方向なのかも必要、この2つの項目をいれてほしい。

■委員

- ・ 昨年の構想では、高台移転だけでなく、沿岸地域も含めたまちづくり計画としてきている。グランドデザインと人生支援と産業振興計画の目指すところとして、持続可能な構造を持つ都市ということである。この点は行政内部でも議論を重ねてきた経緯がある。

■市長（オブザーバー）

- ・ 資料には書ききれていないが、委員の思いを反映できる部分もある。いただいた意見を受けて検討していきたい。

■委員

- ・ 中山間でも残せない土地が出てきている。土地利用計画を早く出して他のものを肉付けしていき作っていくことはできないか。土地利用計画が重要である。高台移転はすぐにはできないので、移転場所の検討や確保が必要である。野市町の佐古あたりは農地の放棄地がある。1等地に家が建ち、農家が追いやられている。有効的な土地利用を検討しないといけない。水の問題も将来的にでてくる。香宗川も今年の大雨で反乱一歩手前だった。考えて行くべきだ。

■委員長

- ・ 先に土地利用は正しい。これを優先的に作り込んでいきたい。ゾーニングのことも含め、土地利用計画が前提で議論していかないと基盤の部分で実現できなくなる。第1章の部分が重要である。そのため、今後の進め方で議論していくことになる。
- ・ 動きながら考えて行く部分ができる。各章全体を単純に合わせるのではなくて、相互の関係性を作り込んで合体させていく作業が必要である。

■委員

- ・ 突きつめて、分からないところはファジーにしていけないといけない。解決できないところは仕方ない。

議事（4） 今後の進め方について

■事務局

～今後の進め方についての説明～ 資料4参照

■委員長

- ・ 最終的には土地利用計画に反映していく。一方で産業振興計画の検討がある。こちらからも農業、農村の土地利用が提案される。連携もあるだろう。大学としても調査などやれる部分は手伝っていく。スケジュールどおり、進めていきたい。

■委員

- ・ 当面の土地利用の問題で、雨水の排水問題。現在は烏川と香宗川だけ南の海へと流すようになっている。物部川へ流すことも検討してほしい。高規格道路の延伸とセットで考えてもら

いたい。人口は増えていないのに家が建つ、空き家が増えていく問題もある。

■委員長

- ・空き家の利用、考え方について、国も法律を変えようとしている。全国に空き家が13%(日本平均)ある、香南市の空き家も把握していく必要がある。

■委員

- ・市街地の活性化としては、野市町の南部の開発を考えていくことも必要である。

■委員長

- ・いろんな考えかたの中で考えると膨大な検討になる。今日、第1回の策定委員会が終わると3月に2回目があるのですよね。2回目の開催で委員の意見がどう反映されているのか、基本フレームの部分は少し進んでいると思いますので進捗状況の報告をお願いします。合わせて産業振興計画の会議もあります。どのような意見がでてグラウンドデザインとすり合わせていくのか、次回にはお話できると思います。
- ・全体のことについて何かありますか？

■委員

- ・グラウンドデザインと庁舎建設については切り離してよいのか、庁舎建設の検討が必要であるなら、早急に庁舎建設だけでも議論しないといけないと思うが。

■委員

- ・庁舎建設については検討委員会の設立に向けて準備をしております。来年度、基本構想と基本計画をつくる予定です。グラウンドデザインで昨年検討していただいた3つの案も申し送る形であります。今後は検討委員会で進めていくこととなります。

■委員

- ・産業振興計画の会の資料はありますか。農地法の関係で規制の部分があるので、早く分かればいただきたい。

■委員

- ・策定委員会が開催できていないので、資料は今後になりますが、連携して行いたいと考えています。

■委員長

- ・産業振興計画は、農林水産商工観光住宅の現場の考えとなっている部分で、グラウンドデザインの全体構想とあいまっていくこととなると思う。調整連携が必要であり、それらを含めて今後は汗と苦勞を覚悟しないといけない。

3. その他（進行：受田委員長）

■事務局

- ・次回は3月24日（火）13：30～3階第4会議室で開催します。

4. 閉会（進行：浜田氏）

- ・閉会のあいさつ（野中委員）

以上